

ICTのリテラシー教育は小学校低学年から

「子どもたちのiPadの使い方を見ていると不安に思えるのですがどう指導していくのが良いのかわからなくて。」といった相談事が推進センターにも寄せられています。

伊那市地域おこし協力隊の浅利美美さんは市内の小中学校を訪問して「ICTリテラシー教育」の出前授業を行い担任の先生や子どもたちと一緒に上手なICT活用について考え合っています。



①ICT活用で心配される子どもたちへの健康被害。iPadを使うときには背中を伸ばして目を画面から30cm以上離しましょう。「30cmってどれくらい?」



②子どもたちはiPadの画面と目の距離を物差しやノートを使ってチェックします。背筋を伸ばして、クラスみんなの姿勢が良くなりました。



③学校で使う「学習用iPad」と家庭にあるスマートフォンやiPadを比べて「同じところと違うところ」について考え合いました。クイズで確認もします。



④iPadを持って社会科見学に出かけて撮影をするときの上手な撮り方。忘れてはいけないのはマナーです。動画を見た後に「撮影の際、許可がいる写真はどんな写真か?」みんなで考えました。



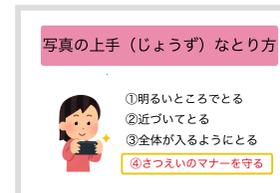
⑤iPadを使って友だちの写真を撮ることがあります。「自分や自分の持ち物が写った写真にされたくないことはありますか?」いくつかの場面を分類してみました。



⑥友だちの意見を「共同閲覧」してみると「自分が写った写真にされたくないこと」が人によってみんな違っていることに子どもたちは気づきました。ICTを活用するときには相手のことを気づかうことが大切です。

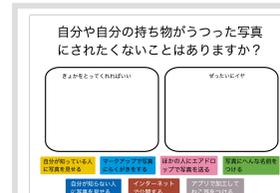
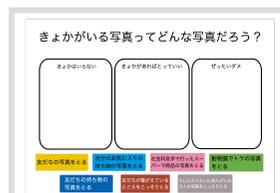
地域おこし協力隊の浅利美美さんが、東春近小学校で行った出前授業の様子をもとに推進センターで編集させていただきました

小学校低学年むけICTのリテラシー授業の内容は



授業の内容が児童に紹介された後、iPadを使うときの姿勢をチェックします。背筋を伸ばすことやiPadから目を離すことについて確認をします。学習用iPadと家庭にあるICT機器との類似点

と相違点を考え、学校でのiPadの利用方法について確認しました。授業中の使用について確認し、社会科見学などで写真撮影をする際の注意点について考え合いました。



撮影許可が必要な写真があることに気づかせ場面ごとに分類をします。個人での利用であれば許可がいらぬもの、公開をする目的である場合には許可がいることなどを学びます。友だちに「写真を撮らせて」と言われたときの対応の方法や、自分が写った写真に対してされ

たくないことを考え合いました。友だちの意見を聞く中で、されたくないことが人によって様々であることに気づきます。ICTを活用する時代にあって子どもたちが身につけておくべきリテラシーは低学年の時期から学ぶ必要があります。

今回の出前授業について浅利さんに聞きました

「低学年では特にトラブルは起きていない」とも聞きますが、早い段階でルールやマナーを知り「自分や他人が傷つかないためにはどうすればいいか」を自分で考えていくことが大切です。新しい機能を見つけては試してみたいがちな中学年以降、インターネットコミュニケーションの機会も生まれていく高学年～中学生に向けて、ICT活用をより充実したものにするよう、先生方のお手伝いができたらと思います。リテラシー出前授業については、推進センターまでお気軽にお問い合わせください!

伊那市では、「学校教育情報化ビジョン2021」をもとに、iPadを導入して「ICT活用教育」を推進しています。

伝統的
学びを深めるICT活用

先進的
学びに導くICT活用

「Society5.0」時代の
学びを支える教員

個別最適な学び・対話的学び
創造性を育む学びの実現